

事業所名	グループホームまほろば (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年10月12日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員 B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師(3年)
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>入居者個人の尊厳を重視した介護を目指すことを基本理念に、さりげない支援をしている。</p> <p>自然栽培を志した有機農法で作った食材を使い、旬の野菜を盛り込んだ食生活の充実を図っており、ひいては介護予防に結びつくことを目指している。</p> <p>入居者へのゆとりある介護を提供するため、管理者は職員一人ひとりを大切に思い、職員間の信頼と友好が図れるよう努めている。</p> <p>併設された施設のレクリエーション行事、ボランティアによる喫茶等にグループホームから積極的に参加している。また、広い庭園内の散歩コースの敷設など、メリハリのある生活を心がけ、心身機能の維持を図っている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>認知症の特性を踏まえ、嫌いでからの姓で呼んでも反応がなく子供の頃からの愛称で声掛けをすといつも笑顔で反応される入居者が数名あり、親近感かつ安心感をもって過ごしていただける場合のみ愛称での呼称を取り入れている。</p> <p>食事時やティータイムの席、リビングでのテレビを見る席等、気の合う人同士、または同じベースの人とのグループで同席するよう配慮している。</p> <p>入居者に対して、柔和で物腰の低い接し方に徹している。また、入居者個々の能力を活かせる出番作り等、職員も共に生きようとする姿勢の中から馴染みの場となるよう努めている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>「高齢者のための至上の楽園」を大きくスローガンに掲げ、入居者のすべてのレベルにも環境を変えることなく、心身ともに健やかに過ごしていただけるよう総合福祉事業を併設している。一人ひとりの尊厳を大切にとの代表者の熱い思いを引き継ぎ、各施設現場に反映させている。また、グループホームの管理者・主任も代表者の夢に沿った現場を目指し、職員の資質向上や最高の安らぎの提供を心がけている。</p> <p>JR駅から700mほど北へ坂道を上がった中腹に位置し、辺りは緑に包まれ、小高い山頂では自然農法による農園が営まれている。そこでは、太陽と大地の恵み、温もりのある人の手で有機野菜が作られている。果物・米も手作りで、命の源となる「食」へのこだわりが実現されている。採れたての食材は、ホームで贈う入居者の食生活へ還元され、季節感あふれる旬の献立は介護予防に繋がっている。当農園は障害者の自立を目的とした作業所であり、代表者の福祉への幅広い意気込みがある。</p> <p>グループホームの管理者・主任・職員に退職者が過去一年間一人もおらず定着しており、落ち着いた馴染み深い場作りができている。</p> <p>脱衣室には清拭タオルがいつも保温器に準備されており、急な失禁失便はもちろん、毎朝全員の陰部清拭を励行し、爽やかな一日の始まりに備えている。</p> <p>各書類のファイリングが非常に判り易くきちんと整理されており、マンネリ化される事無く事務所も整然としている。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>ホーム内は、ゆったりとくつろいだ空間が提供されていた。強いて言うならば、玄関の出入りの空間にもう工夫があれば、もっと落ち着いて靴を履き替えることができ、玄関を開け我が家に帰った瞬間にホッと一息つけるスペースに変わるのではないだろうか。</p> <p>例えば</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 靴箱と長椅子の距離を近づけて、玄関内に設置してはどうだろうか。 2 玄関マットの厚さが気になったのだが、転倒の危険性はどうか。 3 洗濯機等の目隠しの防水用カーテンを家庭的な柄に替えてみてはどうだろうか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>失禁時には、「ちょっと用事があるので、すみませんがごちへどうぞ。」とさりげなく声かけをし、近くのトイレ・脱衣場・居室等に誘導し、他の話題を話しかけながら保温器の温かいタオルで清拭している。</p> <p>個々の人生の背景を尊重したアセスメントを行い、当時の場面や会話を暮らしの中に取り入れている。時には職員が演じることで入居者が懐古にひたる等、楽しく過去をひもといている。</p> <p>ケアプランの評価・モニタリングの結果から、個別に「出来ること」「出来ないこと」を表に書き出し、出番や役割作りを活かしている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>運営推進会議を今後定期的に実施し、入居者の家族からも推進委員として2名加わり、管理者・主任・同法人施設長等がサービスの質の向上を目指して多方面の意見を取り入れて行く方針を取っている。</p> <p>法人内の他施設と共に、事例検討等を通じ、問題解決に向けての委員会を定期的に開催している。</p> <p>ホーム内研修も外部からの講師を招いて講習会を実施し、資格取得にも積極的に励むよう呼びかけており、職員は様々な研修を受講している。</p> <p>「SPS報告書」には、事故報告からヒヤリハットまでの出来事を詳細に記録している。反省・検討・今後の課題を報告書に掲載し、代表者以下、各施設幹部・職員で情報の共有を図っている。</p> <p>問題発生要因に転倒骨折が多い事から、視力低下の入居者には手引き歩行をこまめに行い、細心の注意を払っている。</p>		